

### ■（２７３）福島で思う、サッカーの聖地が戻ってきたが……

福島県のＪＲいわき駅前に久しぶりに立ちました。前は次男のサッカーの応援でした。駅前のホテルを拠点に、近くの大形サッカー施設・Ｊビレッジに通いました。試合の合間にはそばの海で泳いだものです。横には火力発電所の煙突がそびえていました。

東日本大震災と福島第１原発事故が起きたのは、それから間もなくです。施設は原発事故対策の拠点となり、サッカー選手や少年たちの姿は消えました。トレーニング施設として部分的に利用が再開されたのは今年７月です。事故から７年半近くもたっていました。

この間、いわきには原発事故による避難者や作業員らが集まり、一時は東北で仙台に次ぐ都市になりました。住民の消えた原発そばとは対照的です。それでも終わりの見えない原発事故の影響に、まちの空気は今も重苦しく感じます。なのに、東京からいわきに向かうＪＲ常磐線の沿線にある東海第２原子力発電所は２０年間の運転延長が認められました。

次男はすでに社会人です。Ｊビレッジに再び少年たちの歓声が響きわたるのはいつになるのか。また海水浴が出来る日は来るのか。まだまだ答えが見えてきません。（山）